■シリーズ■

中学校武道
―授業の充実に向けて㉜―
剣道授業の実践報告と必修化の課題

千葉県袖ケ浦市立根形中学校 教諭
成尾 進

筆者は、中学1年生から高校・大学・社会人までの15年間を、陸上競技一筋にアスリートとしての道を歩んできた。武道については、学生時代に体育の授業で柔道や相撲を教わった程度で、剣道についてはまったく経験がなかった。本校に初任者として着任して6年目になるが、剣道の授業を導入したのは3年前からである。武道必修化に向け、袖ケ浦市教育委員会の社会人活用事業を取り入れ、剣道有段者とともに、新学習指導要領の先取りとして始めた。剣道未経験の筆者にとっては未知の世界であったが、生徒も同じ未経験者として互いに学び合える場と捉え、授業を実践してきた。

今年度は、袖ケ浦市教育委員会の計らいにより、千葉県主催の実技講習会に参加し、剣道一級を取得した。あらためて剣道の奥深さ、楽しさなどを実感している中、この経験をなんとか生徒に伝えたいと、常に学ぶ心をもって実践を続けている。

剣道を専門としていない筆者の実践経験は、武道必修化に向けて悩んでいる保健体育科教員にとって興味深いものになると思う。本校での実践内容が、他校の武道教育の一助となることを願い、ここで報告をしたい。

1 はじめに

本校は袖ケ浦市のほぼ中心部に位置し、全校生徒数は168名である。学習面では、県の学力検査で平均点を大きく上回る学力を維持し、運動面ではソフトボール部や柔道・剣道部が県大会出場の常連であるなど、生徒は勉強・運動ともにバランスのとれた学校生活を送っている。

武道（剣道）の授業は、平成24年度から完全実施される武道必修化に向けて、20年度から行っている。本校の保健体育科教員は2名。全学年の男子は4月から6月に筆者が、女子は10月から11月にかけてもう一人の教員（女性）が担当している。武道は技術の向上だけでなく「礼儀作法」や「他を尊重する精神」を養うことができるという理由で、本校では重点を置いている領域である。

その中で、剣道は「打つ、打たれる」等の攻防を展開し、有効打突を目指して楽しさを味わうという、種目の特性がある。また、その学びの場では、お互いに苦しみを耐えることや相手を思いやる心、恐怖心を捨てて打っていく勇気などが養われる。

これは、新学習指導要領でも引続き示されている「生きる力」の育成にも繋がると考える。また、中学生が今、忘れかけている「我慢すること」や「耐えること」を学ぶことができる絶好の機会だと思っている。

指導目標は、あくまで授業ということを前提に、「勝つことを重視する指導」ではなく、「生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てること」とした。授業では、指導目標をどのように設定するかでその方針が大きく変わってくる。本校では、外部指導者として市の総合教育センター教育指導員を務める軽米満世教士七段を招き、TT（ティームティーチング）で授業を行っているが、この目標を共通認識し、指導にあたっている。

2 授業づくり

（1）オリエンテーション（1年生）

1年生の中には、剣道をはじめて経験する生徒もいるので、オリエンテーションは、より充実した内容にしたい。剣道の歴史や特性、今後の授業の予定などを伝えているが、本校では、たまたま市内の博物館から鎧（よろい）かぶとを借用することができたので、生徒に見せたり、実際に着装させたりしている（**次頁写真1**）。地域との連携を図りながら、その歴史や特性に触れ、剣道が

（写真３）ランニングにあわせ、すり足と手刀での面を行う

（写真１）市の博物館から鎧を借りて授業で紹介

（写真４）応じ技で学ぶ「反応」の運動

（写真２）剣道対なぎなたの異種試合

日本の伝統と文化に培われてきた武道であることを印象づけたい。ほかにも、剣道対なぎなた（本校の事務職員はなぎなたの国体選手）の試合を生徒に見せた（**写真2**）。剣道のさまざまな側面が紹介できたことで、生徒は武道を身近に感じることができたようである。1年時の剣道経験が次年度以降に大きく影響を与えるので、導入時はしっかりと計画を立てて実践していくことが望ましい。

（2）準備運動

資料1の2年生の指導案でも示したが、本校の授業では、準備運動に3分間走を取り入れている。剣道の授業でも同様に胴・垂を着装した状態で走っている。ただ走るだけでなく、ランニングの中に「すり足」を入れたり、刃筋正しく振ることができるよう、手刀で「面・小手・胴・小手面」を行い、ウォーミング・アップの段階から剣道の動きを取り入れている（**写真3**）。

また、「反応」（指導者の指示に合わせて素早く向きを変える）という運動があるが、それと似た内容で、剣道の応じ技の練習を補助運動の一つとして行っている（**写真4**）。まず、生徒と向かい合い、双方とも手刀で構えた状態になる。そして、教師が面を打ってきたら生徒は胴、胴を打ってきたら小手・面といった具合に応じ技を行い、集中力と反応力を養う。応じ技は本来授業のメインとして行う運動だろうが、より内容の濃い授業を目指すため、補助運動の中に組み入れて実践している。

（3）達成感を味わわせる

どんな単元でも、授業が終わった時に生徒が満足した顔で自分の教室に戻る姿を見たい。そのためには指導者としてどのような授業展開を工夫していけばいいのだろうか。

授業では筆者も同様に防具を着け、生徒と試合を行うことも

（資料１）学習指導案〔２年生10時間目〕

指　導　者　　成尾　　進（Ｔ１）
教科指導員　　軽米　満世（Ｔ２）

１．単元名　　武道（剣道）

２．本時の目標

＜技能・体力＞　○しかけ技（二・三段の技）を刃筋正しく打つことができる。
○剣道の稽古を通して、主に瞬発力・巧緻性・敏捷性などを向上させることができる。
○学習した技を使って、互格稽古を行うことができる。

＜関心・意欲・態度＞　○剣道の学習方法を理解し、常に相手を尊重した態度で礼儀正しく実践できる。

＜思考・判断＞　○仲間と協力して、技を教え合いながら取り組むことができる。
○互格稽古の中で相手と攻防を繰り返し、勝負を楽しむことができる。

＜健康・安全・生活化＞　○自分の身を危険から回避することができ、怪我の防止に役立てることができる。
○礼法を学び、普段の学校生活に生かすことができる。

３．展開

学習過程	時配	学習活動と内容	学習形態	指導上の留意点と評価 ・：指支　○：評価　★：体力　◆：思判 ●：関意態　▼：技能　▲：知理	資料等
導入 課題把握	5	1．準備（垂と胴を着装し集合する） 2．集合・整列・挨拶 3．本時の学習内容とねらいの確認 ・学習の進め方を知る ・学習目標や課題を明らかにする ・体育ノートに学習課題を記入する ・礼の実践 （静的健康観察）	個人 一斉 一斉	・竹刀の安全点検を行わせる ・安全で能率的に行うように助言する　（Ｔ２） ○体育ノートで本時の練習の仕方や学習する技術を確認させる ○個々の生徒に目を向け、自主的な活動をしている生徒を賞賛する ◆日常生活で、学習した礼を実践できたか確認し、実践させる	竹刀 胴、垂 体育ノート
		しかけ技（小手→面）を刃筋正しく打つことができる			
	１０	4．準備運動 ・３分間走 ＊すり足 → 面 → 小手 → 胴 → 小手・面の順に基本動作を入れながら行う ・準備体操を行う 5．補助運動 ・反応１（教師の指示に従い体を動かす） ・反応２（教師の技に対して応じ技を出）	一斉 一斉	◆心肺機能の向上と体温を上昇できたか （１０秒間で２０～２２回程度高める） ▼手刀での正しい振りができているか　（Ｔ２） ・筋肉の可動範囲を広げるように意識させる ・集中力と敏捷性を高めるよう意識させる ○手刀での技に対して素早く反応して技が出せたか（Ｔ２）	
		6．着装（小手・面）	個人	・着装ができた生徒からスキルアップを行うようにさせる ○正しく着装されているか　（Ｔ２）	小手 面
展開	３０	7．基本動作（面・小手・胴） ＜隊形１＞※太鼓の合図で右に１つ移動 ○←○←○←○←○←○←○←○←○ ↓　　↑ ○→○→○→○→○→○→○→○→○	ペア	●気（気迫ある声） ▼剣（竹刀の正しい打突） ★体（体の出・足の出） の一致になっているか ○声が出ているか ○踏み込みと打つタイミングが合っているか　（Ｔ２） ○刃筋正しく打てているか	
		8．判定試合 ＜隊形２＞ ○　　○　　○ 審×　　審×　　審× ●　　●　　●	班	・小手→面の打ち方、打たせ方の確認を行う ○正しい打ち方ができているか　（相互評価） ▲みんなで協力して、安全に練習できたか ・判定基準の確認を行う	
		9．互格稽古 ※＜隊形１＞と同じ隊形 ＊３０秒間で行う ※積極的に行っている班を見本としてみせる	班	★学習した技を繰り返し実践できたか ▲「攻撃は最大の防御である」ことを指導し、積極的に技を繰り出すことができたか　（Ｔ２） ○生徒の良い面を評価し賞賛する	
		10．整理運動（ゆっくりと正面振り）	一斉	●疲労回復と精神的興奮の鎮静の大切さについて指導し、実践を促す	体育ノート
まとめ	5	11．本時の学習の反省・評価 ・体育ノートに記入する （静的健康観察）	一斉	○目標達成や課題解決に向かって意欲的な生徒を評価し賞賛する	
		12．整列、静座、挨拶	一斉	○全体的な授業の評価をし、精一杯活動していた生徒や班を賞賛する ・精神統一、本時の学習姿勢を振り返えさせる	

４．評価の基準

＜技能・体力＞　○小手→面の技が刃筋正しく打つことができたか。
○全面的な体力の向上を図ることができたか。
○学習した技を使って、互格稽古を行うことができたか。

＜関心・意欲・態度＞　○意欲的に取り組み、相手を尊重した態度で礼儀正しく実践できたか。

＜思考・判断＞　○仲間と協力して、技を教え合いながら取り組むことができたか。
○有効打突の基準（気剣体の一致）を理解し判断することができたか。

＜健康・安全・生活化＞　○自分の身を危険から回避することができ、怪我の防止に役立てることができたか。

ある。なぜなら、教える側も本気で取り組んでいるという姿勢を見せることが、生徒に大きな影響を与えるからである。剣道経験のない私にとっては出来ない生徒の気持ちがよくわかる。30秒間の互格稽古であえて負けて、悔しさを前面に出したり、剣道部の生徒と互格稽古などもしている。

生徒には、たくさんの汗を流す中で、自分もやればできるという気持ちを持たせたい。そうすることができれば、次の授業にも意欲を増すだろう。

防具を外したときの生徒の表情はとても晴れやかな顔をしている。それは、1時間の授業を精一杯やったからこそ見せる表情である。いつもこの姿が見られるよう、達成感が味わえる授業を展開していきたいと考えている。

生徒には本気で取り組むことの大切さを知ってほしい（右・筆者）

（4）評価

本校では、剣道についての歴史・特性や専門用語などを載せた、独自の体育ノートを個人ごとに作成している。また、ノートに感想を書かせ、その内容から評価を行っている。評価の規準は学校によって異なると思うが、私が評価するポイントは、「自分自身が剣道をとおしてどのように変わってきたか」「物事に対して見方がどう変わったか」「本時の課題に対する取り組みに、どのような変化が見られたか」などである。感想や反省には生徒自身の気持ちがよく表現されているので、それとともに次の授業で褒めたり課題に気付かせたりして、意欲の向上を図っている。ひとりの考えの変化が、全体のレベルアップに大きな影響を与えることもあるので、ノートの内容を活かし、剣道に対する価値観を大きく変えたいものである。

また、実際には技術的にまだ劣っていたとしても、生徒個人の頑張りを評価することで相乗効果を期待したい。そして、お互いに協力しあって授業に臨んでいたかなど、クラス全体としての評価と、個人への評価を毎時間行うことで、指導者としての視野を広げ、小さなことでも見逃さない目を養いたいと思っている。

技の評価規準については指導者の技術的なレベルによって異なることがあるだろう。それゆえ専門家は完成度を追求してしまいがちだが、筆者の場合はできるだけ単純化し、「気迫の声」「竹刀を刃筋正しく振り、打突部で打突部位を捉える」「残心を示す」の3観点で行っている。わかりやすい基準で評価を行うことで、生徒が審判を行った時の判定基準も明確になる。

また、有効打突（一本）は「気・剣・体・残心」が判定基準となるが、その基準は生徒の習熟度によって工夫している。最初から高いレベルのものを求めてしまうと良い評価ができなくなる。課題の提示は必要なことだが、生徒の積極性を優先しながら評価した方が、より意欲を高めやすい。剣道は奥深い単元であるだけに、その評価も生徒にわかりやすく伝える工夫が必要である。

（5）単元指導計画（資料2）

全学年とも13時間扱いで展開できるよう、学習計画を立てている。前述のとおり、1時間目は武道場でオリエンテーションを行い、剣道の歴史や特性などの知識を深めた。また、実際に

（資料２） ３年間の指導計画

（1）目的　我が国の伝統と文化に培われた武道を正しく伝承し、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身につけ、相手と勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わわせる。

（2）単元目標

〈運動技能・体力〉　○剣道の基本動作を正しく指導し、気剣体一致の技を身に付けさせる。
　○剣道の練習を通して特に瞬発力・巧緻性・敏捷性等の体力を向上させる。

〈関心・意欲・態度〉　○剣道の学習の仕方を理解させ、相手を尊重した態度で行わせる。
　○礼儀作法（礼の意味を理解させる）を正しく指導し、心のこもった端正な礼を実践させる。

〈思考・判断〉　○仲間と協力して、技を教え合いながら協力し取り組ませる。
　○互格稽古の中で相手の攻撃に対し瞬間的に判断し、技を出させる。

〈健康・安全・生活化〉　○自分の身を危険から回避することや、怪我の防止に努めさせる。
　○剣道に必要な体力トレーニングを自宅でも実践する能力を育てる。

学年		1年		2年		3年
時間配分		初めての剣道体験１３時間		剣道の楽しさを知る１３時間		剣道の攻防の楽しさを知る１３時間
指導内容	1	オリエンテーション（剣道の歴史・特性・授業の行い方） ※防具（剣道具）の正しい着装	1	オリエンテーション（剣道の歴史・特性・授業の行い方） ※防具（剣道具）の正しい着装	1	オリエンテーション（剣道の歴史・特性・授業の行い方） ※防具（剣道具）の正しい着装
	2	礼儀作法・所作・足さばき・体さばき・素振り 前進後退面	2	礼儀作法・所作・足さばき・体さばき・素振り 切り返し・面・小手・胴	2 3	礼儀作法・所作 木刀による剣道基本技稽古法 （基本１～基本９）
	3 4	防具（剣道具）の正しい着装 １本打ちの技（面・小手・胴） 打ち方と打たせ方	3 4	木刀による剣道基本技稽古法 （基本５～基本９） ※防具（剣道具）着装	4	面・小手・胴・引き技 連続技の打ち込み 左右面打ち
	5	１本打ちの技・連続技（二・三段技） ・打ち込み稽古 切り返し	5	防具（剣道具）の正しい着装 １本打ちの技（面・小手・胴） 打ち込み稽古・切り返し	5	面・小手・胴・二段・三段・ 体当たり技・切り返し 連続技の打ち込み
	6 7	木刀による剣道基本技稽古法 （基本１～基本４） ※防具（剣道具）着装	6 7	面・小手・胴・二段・三段・ 体当たり技・切り返し 連続技の打ち込み	6	すり上げ技 小手すり上げ面 面すり上げ面・互格稽古
	8	引き技（面・小手・胴） スキルテスト 打ち込み稽古	8	スキルテスト 抜き技（小手抜き面） （面抜き胴）	7	払い技・出ばな技 抜き技・すり上げ技 打ち落とし技
	9	連続技（二・三段技） スキルテスト・互格稽古	9	体当たり・引き技 掛かり稽古・互格稽古	8	面に対しての応じ技 互格稽古・掛かり稽古
	10 11	連続技（二・三段技） 体当たり・引き技 互格稽古	10 11	しかけ技・応じ技 掛かり稽古 互格稽古	9	小手に対しての応じ技 互格稽古・掛かり稽古
	12	ルール・審判の理解 ①ごく簡単な試合練習 ３人組個人戦	12	ルール・審判の理解 ①団体試合（５人制） 班対抗トーナメント戦	10 11	ルール・審判の理解 ①個人試合 ５人リーグ戦
	13	ルール・審判の理解 ②判定試合 班対抗団体戦	13	ルール・審判の理解 ②個人試合 トーナメント戦	12 13	ルール・審判の理解 ②団体試合 班対抗リーグ戦

※礼法及び剣道具の着装についてはオリエンテーションから３年間を通して丁寧に指導する。

竹刀や木刀を握り、新聞切りやスポーツチャンバラ、新聞紙を丸めたものを打つなど、生徒に剣道の雰囲気を体感させた。さらにそれにゲーム性をもたせて実践した。すると、2時間目以降の授業も積極的に取り組むようになった。

攻防の展開の楽しさを味わわせる工夫として、毎時間完全燃焼できるように、そのときどきで教わった技術をもとに互格稽古を行った。30秒間という短い時間だが、生徒はたくさんの汗を流し、満足した様子が見られた。

(6) 心を育てる指導

本校では、武道を我が国の伝統ある文化として捉え、特に礼儀作法を重んじ、実践している。それは、普段の学校生活にも生かされている。

たとえば、体育館に入る時、「一礼」をする、自分の脱いだジャージをしっかりたたみ、脱いだ靴を揃える、相手の目を見て挨拶をする、背筋がしっかり伸びた「気をつけ」の姿勢をする、といったことが、授業以外の場でも守られ、学校生活の活性化に繋がった。

とくに男子生徒には、授業の中で「我慢のできる、人の痛みが分かる人間になれ」「男になれ」と語りかけ、現代の日本人が忘れかけている部分を剣道をとおして伝えているつもりである。

授業を終えての感想を見ると、心が育っていると感じる文章をよく目にする（**資料3**）。剣道授業を生徒指導の一環として捉えることもでき、心を育てる指導が剣道をとおして実践できたように思える。

3 必修化に向けての課題と対策

(1) 運動量の確保

剣道と聞くと準備に時間がかかり、主運動の時間が確保できないことなどが懸念されがちである。

たしかに、防具の着装には、多くの時間を費やす。しかし、はじめは時間がかかるものでも、毎時間やっていると生徒も慣れてくるので、かなり短縮できるようになる。早く着装できるように時間設定して取り組ませることも大切である。本校では、指導を繰り返していくうちに、最終的に3分以内で全員が着装できるまでになった。

また、腕を絞った素振り、小手のスキルアップテスト、毎時間の互格稽古など、ポイントを押さえた指導ができれば、運動量は十分に確保できる単元である。

(2) 外部指導者の活用

剣道を専門としない教師の場合、慣れないうちはどのように指導すればよいか分からなくなるときがあるだろう。その解決策の一つとして、地域との連携をはかった外部指導者の活用を勧めたい。専門的な指導ができる点はもとより、教師も一緒に学びながら授業ができるなど、指導レベルを上げる面で絶好の機会になる。

本校でいえば、T2として外部指導者の助けがあったことは、専門外の筆者にとって、とても心強かった。具体的には、剣道特有の専門知識の教授や、礼法、技術的な指導でも良い示範（しはん）として見せることができた。また、技術面を向上させるポイントを、しっかり押さえた指導も協力してできた。そのおかげで、筆者も専門的な知識はもちろん、技術面でもより専門性を追求できるようになったと感じている。

(3) 環境整備

本校では、平成20年度から剣道を授業で行うことになったため、環境や条件を整備する必要があった。本校の武道場は既に昭和61年に設置されていた。防具については、いくつか揃っていたものの、破損・不備があり修理が必要であった。さらに、近年生徒が増えて数量不足となっていたため、近隣の高等学校から廃棄予定のものを譲り受け、やっと補っているような状況だった。

しかし、袖ケ浦市教育委員会が、文部科学省「平成22年度学校体育振興事業（中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践

（資料3）授業後の生徒のアンケートより〔3年生男子〕

【質問事項】
①剣道で学んだこと（歴史、礼儀、楽しさ、技能、思いやり、その他）②改善点（物足りなかったこと、来年やりたいこと、その他）③軽米先生に一言

【回答内容】
①剣道は互いに技を打つから痛いけど、互いに痛いから、そこに思いやりが生まれた。技が一本が決まるとすごく気持ち良くて楽しかった。勝負に勝っても負けても互いに礼をした。礼儀を学んだ。3年間やって、初めてやったときとくらべて、技術もすごく伸び、体力と共に精神力がついた。
②最後の授業は、とても充実してできて良かったと思うけど、声があと少し出せたら良かったなぁと思う。
③誰にも負けんばかりの強い精神と人を思いやる気持ち、そして礼儀が身につきました。

①剣道で学んだことは、まず最初に礼儀です。私生活でのあいさつが今まで以上にできるようになりました。そして技術面でも、授業をかさねるごとに少しずつ上達できたのでうれしかったです。剣道の授業をとおして頑張ることの大切さを学ぶことができたのでよかったです。
②試合では決勝トーナメントに進めたのですが、負けてしまったのでくやしかったです。
③軽米先生とは剣道のときにしか接することがないのですが、いつもキリッとしていてカッコイイと思いました。自分もこの剣道を通して、少しは礼儀が良くなったと思いますが、まだまだなので、これからの生活でも剣道のことを思い出して、日々を大切にしていきたいと思います。

①礼儀の大切さを学びました。練習していても防具のついていない部分を打ってしまったり、面、小手、胴を打たせてもらっているので最初の礼では「お願いします」の心をこめて、最後の礼には感謝の気持ちを持って礼をすることは本当に大切だと思いました。これから生活や部活に生かしていきたいです。
②反省点は試合の時にうまく技が出せなかったことです。
③先生にほめていただいた時は本当にうれしかったです。これで中学校の剣道は終わりですが、先生から学んだ礼儀や、相手・仲間への感謝の気持ちを忘れず、今後に生かしていきたいです。

校）」の事業で、武道教育の在り方を研究していくことになったため、剣道授業で必要な道具の購入費が予算化されることになった。そして、竹刀30本と防具30組を購入し、教育環境を整えることができた。充実した授業を展開していく上で施設や防具が整備されていることが生徒の学習意欲向上に関係しているのはいうまでもない。教育委員会をはじめとした各方面の助力を得ながら、環境整備に力を入れていくべきだと実感した。

本校ではこのように、武道場や授業で使用する防具などが整備されているが、学校によっては「武道場がない」「防具が生徒分ない」などの問題が発生するケースも想定できる。

しかし剣道は、竹刀を握り相手の面や小手などを打つことだけではなく、「日本剣道形」や「木刀による剣道基本技稽古法」といったものもある。これは剣道の段級審査にも導入されており、竹刀や防具、武道場がなくても、木刀があれば体育館で行えるものである。昨年度、3年生男子を対象に木刀による授業を9時間扱いで実施した。危険を伴う木刀の授業は緊張感のある授業であった。生徒ははじめ、1・2年時に竹刀を持って打ち合っていた時の印象が強く、打ち合えないという物足りなさを感じていたようだった。しかし、授業の後半では、「運動して汗をかくことは気持ちがよいが、緊張感の中でしたたり落ちる汗も気持ちよかった」「相手と息を合わせることの難しさを実感し、自分がうまくできたのは相手がうまく打たせてくれたからだと分かった」「木刀による剣道授業の楽しさ、形が決まった時の喜びを味わえた」などの感想が得られた。

前述したが、運動量が不足すると懸念される剣道でも、工夫次第でそれは確保でき、生徒も満足感や達成感を味わって授業を終えることができる。木刀を使用しての授業は「静」の中で行われ、緊張感を持続させることや礼儀作法を学ぶうえで、非常に効果的であると感じる。これは他の教科にも好影響を与えている。生徒は、授業に集中して取り組むようになり、他教科の先生から、話を聞く姿勢が変わったという声もいただいた。必修化に向け、今後も学校事情に応じた授業展開の工夫がより必要になってくるだろう。

剣道の特性を知るため、施設や防具を揃えることは大事だが、工夫により木刀だけでも充実した授業を展開できる

4 おわりに

以上のように、今後の課題として、運動量の確保を前提とした単元計画の作成、外部指導者の活用、指導者の育成、道具や場所をはじめとした学習環境の整備などが考えられる。これから武道授業の実施を検討する学校は、こういった課題がたくさん出てくると思う。

しかし、最も大切なのは「武道を通して生徒をこう変えたい」というしっかりとしたビジョンを教師が持つことである。剣道をやらない理由を探すのではなく、こうすればできるという理由を探すことが大切である。そのため、本校では「剣道の授業研究を参観する」「有段者から指導方法を学ぶ」「実技講習会へ参加する」など、よりよい武道授業が展開できるよう積極的な取り組みをしている。

生徒には武道の授業をとおして、礼儀作法、相手への尊敬の念、我慢することの大切さを理解させたい。そして、日本人として武道という自国の伝統文化を学んでいるという誇りを持って授業に臨んでほしいと思う。

筆者自身、これからの時代を担っていく生徒に武道の魅力や特性を正しく伝えられるよう、引続き研究、指導にあたっていきたいと考えている。

快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

●ビルディング・トータル・マネジメント ●清掃等建築物の環境衛生管理
●空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理 ●警備、保安、駐車場管理
●原子力セキュリティ及び施設メンテナンス ●工場、ダム等のセキュリティ ●案内、受付他料金徴集業務 ●公園等のグリーンメンテナンス
●ビルメンテナンス用ソフトの開発販売 ●バイオ研究開発
●その他建築物の運用、管理に係る一切の業務

株式会社東洋実業 代表取締役 横田 正弘

札幌本社／札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル TEL(011)612-1911(代)
東京本社／東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル TEL(03)3345-0531
営業所／函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川・士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉
海外事業／株式会社東洋実業マレーシア／東洋実業シンガポール PTE. LTD.／東洋セキュリティ＆ビルディング・マネジメント（香港）LTD.／